

夢想兵衛胡蝶物語前編

貳

^ 13  
3658  
2



夢想兵衛胡蝶物語卷之二

東都

曲亭馬琴戲編



色慾國上品

慾々色々おほいと大々おほいと。國君くにのみこあまがさめ小爵位しやくゐと棒ぼうとゆると死しも。  
 隣國りんこくよ削けつとられ息子いきこをまが為がみと牙上がじやうと粉こなよとると死しへ。親族しんぞくよ挽ひと  
 ととる。戎やまと十兩じゆりやうの角屋敷かくやしきと一夜いちやの飲樂いんらく小踏漬こたづきせむをもををと生なまと  
 戎やまへ五十年ごじゆねんの姓名せいめいと。二十一期じふにいちよ情死じやうじとせむとも恨うらみとせむと。そんはり  
 大慾おほいへせ慾おほいよ近ちかと患うれひあるも。遠とほと慮おぼえのる死したると。そんはり生なま  
 そ一活いっかつりの。づまう色いろと好あまざる。妻恋つまこ小床こどハ笛ふえよあり。燒野やけのの雜聲ざっせい  
 小あへは。蔽衣おほいの縫目ぬいめよ隠かくと風かぜ也。北きたと負おて花見はなみよ出でうけ。借家かちやの屋  
 根ねよつゝを猫ねこも。友ともと挑ひと。月夜つきよよ呻うなり。北きた狗いぬを追お入い白黒しろくろハ乱らん走そうと

夢見六衛門

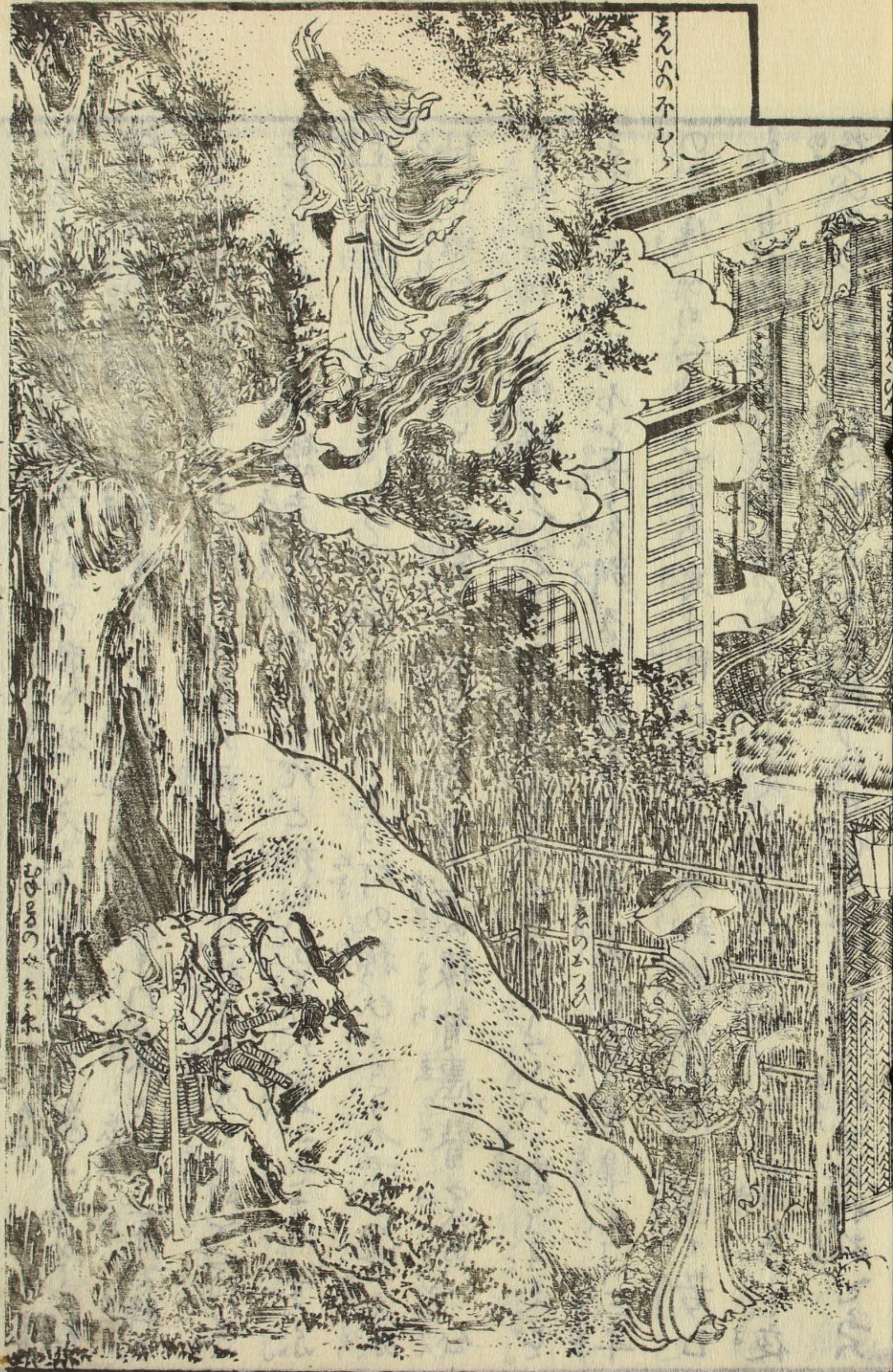




福さしれど尻がむくは流し課せど。是下へ末のぞげぬ恋あり。或は名聞  
 を好む才飛女。うねてより。あひしるより。柴のくるむりある。ばげれせん  
 とへと祿もど。あまう人よ。アヤセの格別の余情あり。化子男と化は契り  
 て捨りまて。後よこそ。と浮気る男よ。え膳しく。たうと浮名のうら以  
 よ。愛想づい。とるぶ。そ。そ。く。それとまう。こうで。かひみ。歌とそ。夫  
 へ。おつて名譽とるもの。こま。う。一首の歌も。よ。か生涯を。痴りのま。る  
 と。る。い。一夜。う。の。君と。う。つ。一心命と花傍。る。男と。同日の。後。こ。の  
 上品領よ。生る。女。顔色も。世よ。傍。各気嫉妬も。世よ。傍。これ。口  
 様。く。い。ひ。も。出。さ。び。日。よ。三。度。夜。よ。三。度。暝。志。の。端。を。燃。と。天。狗。道。乃  
 若。し。ま。い。あ。ま。り。て。卒。妻。と。嬖。妾。の。頭。髻。か。假。寐。し。と。隙。よ。蛇。と。る。れ。ば。  
 夫。も。あ。れ。ま。久。ろ。と。怖。ま。の。景。迹。よ。氣。と。吞。ま。て。下。の。口。も。高。野。へ。登。り。

一生行ひをまじもあり。才色両全の姐。己より。家が。乱。ま。る。忠臣の。禪。言。の。半。滅  
 小も。聽。入。ま。じ。怒。の。そ。杖。手。う。ら。と。る。その。り。ん。ぞ。と。る。な。ら。う。練。あ。る。あ。ぬ。家  
 臣。の。中。に。箕。四。郎。の。奴。と。る。比。干。兵。衛。の。胸。を。裂。ま。す。その。國。亡。ひ。て。忠。臣。の。名。と  
 ら。む。も。迹。の。祭。り。神。も。佛。も。足。ら。ぬ。り。も。く。昔。よ。似。ぬ。故。是。駒。妻。の。女。房  
 の。え。と。ま。り。女。房。の。妻。の。あ。ら。ま。り。と。知。り。た。ま。ぬ。中。あ。ま。り。互。ひ。は。姑。と。り  
 角。つ。れ。の。所。を。悪。人。つ。け。ら。で。科。も。る。景。人。形。よ。四。十。八。本。の。釘。と。打。つ。け。庭  
 の。松。蔭。へ。埋。ま。る。と。ま。り。出。て。立。役。あり。芝。で。の。ゆ。ぬ。と。一。と。松。自。身。よ。馬。と  
 の。あ。り。土。を。ま。り。天。窓。と。脯。燭。を。ほ。丑。の。時。あ。り。と。出。け。ま。バ。ハ。乃  
 鐘。ご。ん。く。と。鳴。り。る。樹。の。梢。と。る。風。の。さ。ら。く。と。青。と。と。足。あ。げ。ゆ。せ。ぬ  
 高。足。駄。自。装。束。よ。髪。あ。り。乱。と。ま。り。支。度。も。甚。手。あ。り。況。て。人。一  
 足。し。ま。り。と。と。る。む。つ。ひ。や。う。く。社。内。よ。歩。ま。り。夏。向。自。氏。買。や。う。か。あ。り

由々田の正徳寺に

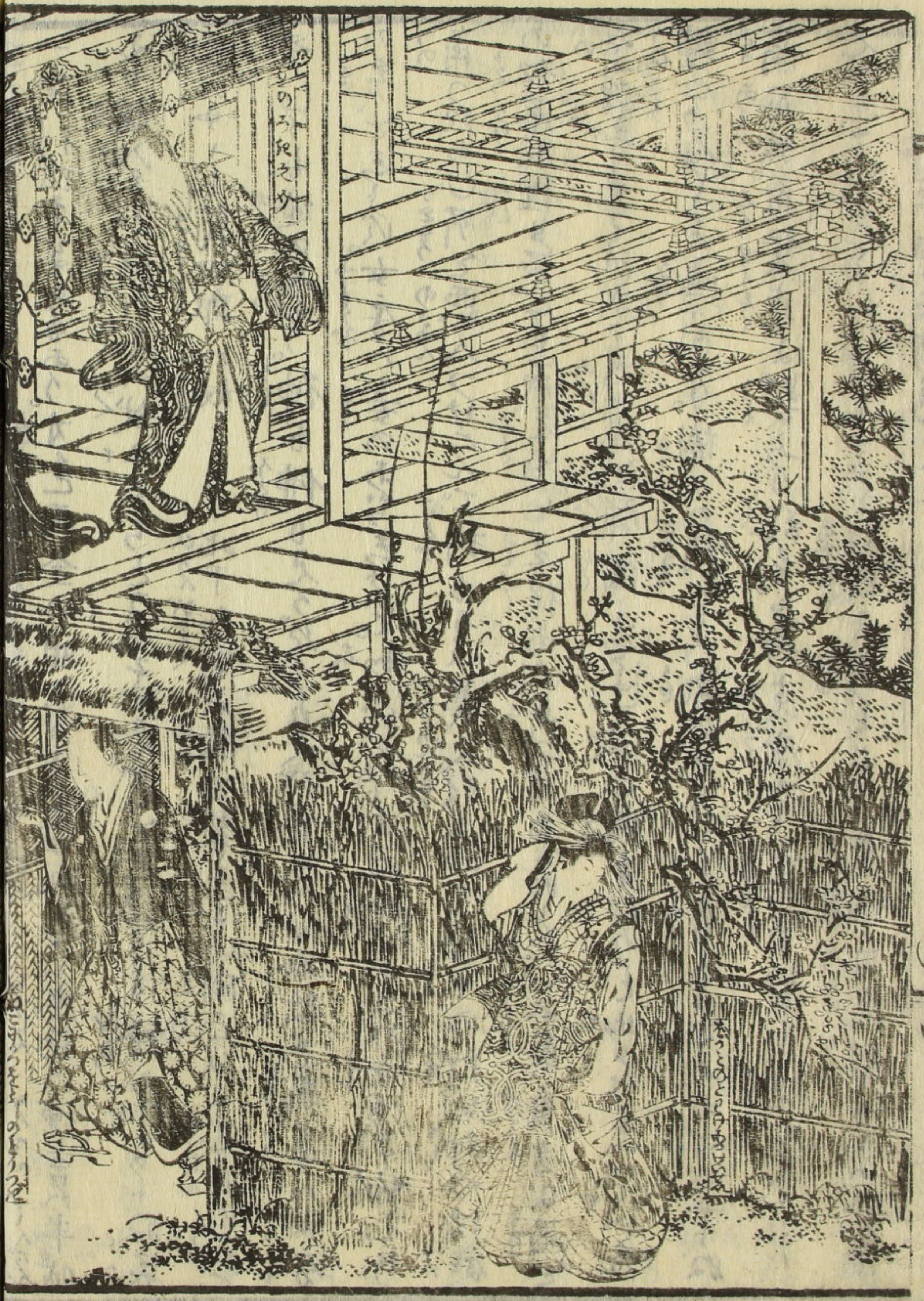


あんのふし

あんのふし

あんのふし

7



あんのふし

あんのふし

7

太刀の根と神木の杉の樹と。握て入らうとさうと。並よそしめ。杖  
 こも因果生身へ入る用の捨る。五寸釘とらうとせられ。葉と切り。芽と時り。  
 ぶらと幸防とらうと。秦の始皇ハ雨やどし。松は太夫の爵とせられ。ま  
 こまの又あまの。胸慾夫杉の字とせられと判じ。まは直よとせられす。ふ  
 生ら樹るればと死といふよ。曲とせぐら。釘の預ひがさふやうのほえ。来  
 神ハ非礼と受む人。と呪り。完ふえ。あ。女の猿智恵。賢家の一公。  
 うや悪神が荷膳して。志は奇特ハ入る。めとくハ一期とせえ。む。  
 さそもく人間とぞ。さう別る。りのの。と草本よ。や。壘準と。三年  
 の古残が。めぐら。と。の身は報ひ。未未永。切刀。杖。地獄へ墮て。苦む  
 りの。中。の。か。る。圃。あ。ゆ。ま。れ。く。ま。蓬。は。交。る。麻。の。ど。く。妬。ま。ぬ。か。あ。る。く。て。夜  
 控。び。よ。の。ま。す。と。花。へ。か。ふ。夫。は。顔。つ。れ。せ。む。と。ま。う。あ。ま。り。控。せ。と。羽。お。と。ふ  
 と。後。り。と。忌。む。く。ま。と。小。服。指。草。履。る。身。は。ぬ。ま。ら。り。よ。ま。れ。て。ハ。疵  
 り。の。足。下。合。点。ゆ。び。草。履。と。兼。草。の。妻。ハ。あ。ま。と。焼。餅。や。り。ぬ  
 女。房。の。う。り。ぬ。ら。う。と。して。あ。ま。り。あ。と。を。ら。や。鴨。河。の。水。り。と。じ。と。樂。む  
 間。夫。が。う。り。て。入。ら。ぬ。さ。う。で。あ。ら。う。や。あ。ま。り。あ。の。ゆ。ま。ぬ。と。わ。く。結。と  
 ま。ぐ。小。り。け。植。根。の。隙。く。窺。へ。出。あ。う。と。う。ら。る。か。め。釘。端。は。折。く  
 さ。を。用。よ。う。か。彩。を。か。め。物。さ。み。げ。は。琴。引。よ。せ。風。ふ。く。お。ま。ら  
 ち。と。彼。立。回。山。夜。も。あ。や。君。が。ひ。と。り。ゆ。く。と。あ。い。と。ま。く。ハ。身。も。う。り。も  
 あ。れ。ど。か。う。の。妻。を。居。物。あ。り。て。ひ。と。り。物。を。あ。せ。ハ。男。冥。利。又。つ。れ  
 くる。と。嗚。呼。と。れ。る。か。め。誤。ら。う。と。後。悔。し。て。切。戸。を。開。け。て。走。り。入。り。堪。忍  
 志。て。と。づ。つ。妻。と。勸。解。て。そ。れ。り。と。夜。あ。ま。び。せ。む。と。あ。め。あ。も。増。と。思。愛。ハ  
 彼。う。柴。の。生。才。智。あ。ら。ぬ。と。似。つ。と。歌。由。亦。実。情。う。り。出。ま。バ。刃。能。あ。り

太刀の根と神木の杉の樹と。握て入らうとさうと。並よそしめ。杖  
 こも因果生身へ入る用の捨る。五寸釘とらうとせられ。葉と切り。芽と時り。  
 ぶらと幸防とらうと。秦の始皇ハ雨やどし。松は太夫の爵とせられ。ま  
 こまの又あまの。胸慾夫杉の字とせられと判じ。まは直よとせられす。ふ  
 生ら樹るればと死といふよ。曲とせぐら。釘の預ひがさふやうのほえ。来  
 神ハ非礼と受む人。と呪り。完ふえ。あ。女の猿智恵。賢家の一公。  
 うや悪神が荷膳して。志は奇特ハ入る。めとくハ一期とせえ。む。  
 さそもく人間とぞ。さう別る。りのの。と草本よ。や。壘準と。三年  
 の古残が。めぐら。と。の身は報ひ。未未永。切刀。杖。地獄へ墮て。苦む  
 りの。中。の。か。る。圃。あ。ゆ。ま。れ。く。ま。蓬。は。交。る。麻。の。ど。く。妬。ま。ぬ。か。あ。る。く。て。夜  
 控。び。よ。の。ま。す。と。花。へ。か。ふ。夫。は。顔。つ。れ。せ。む。と。ま。う。あ。ま。り。控。せ。と。羽。お。と。ふ  
 と。後。り。と。忌。む。く。ま。と。小。服。指。草。履。る。身。は。ぬ。ま。ら。り。よ。ま。れ。て。ハ。疵  
 り。の。足。下。合。点。ゆ。び。草。履。と。兼。草。の。妻。ハ。あ。ま。と。焼。餅。や。り。ぬ  
 女。房。の。う。り。ぬ。ら。う。と。して。あ。ま。り。あ。と。を。ら。や。鴨。河。の。水。り。と。じ。と。樂。む  
 間。夫。が。う。り。て。入。ら。ぬ。さ。う。で。あ。ら。う。や。あ。ま。り。あ。の。ゆ。ま。ぬ。と。わ。く。結。と  
 ま。ぐ。小。り。け。植。根。の。隙。く。窺。へ。出。あ。う。と。う。ら。る。か。め。釘。端。は。折。く  
 さ。を。用。よ。う。か。彩。を。か。め。物。さ。み。げ。は。琴。引。よ。せ。風。ふ。く。お。ま。ら  
 ち。と。彼。立。回。山。夜。も。あ。や。君。が。ひ。と。り。ゆ。く。と。あ。い。と。ま。く。ハ。身。も。う。り。も  
 あ。れ。ど。か。う。の。妻。を。居。物。あ。り。て。ひ。と。り。物。を。あ。せ。ハ。男。冥。利。又。つ。れ  
 くる。と。嗚。呼。と。れ。る。か。め。誤。ら。う。と。後。悔。し。て。切。戸。を。開。け。て。走。り。入。り。堪。忍  
 志。て。と。づ。つ。妻。と。勸。解。て。そ。れ。り。と。夜。あ。ま。び。せ。む。と。あ。め。あ。も。増。と。思。愛。ハ  
 彼。う。柴。の。生。才。智。あ。ら。ぬ。と。似。つ。と。歌。由。亦。実。情。う。り。出。ま。バ。刃。能。あ。り

又その鄰は何がどの。これ由同じ後者あて。云操りり容をりり。やふへるの  
 本妻が。鼻よつくとて妻が。壁を隔て彼増花と。明も暮るても離  
 るる。生てゆけが。本妻を強顔とて。恨もせむ。鄰坐敷乃  
 睦言を。夢てあ。幸防つ。折し。秋の長き夜。風かりて。あ。床の  
 声。酒はあ。つて。夢ゆ。ば。床。ふ。ぬ。ま。ま。本妻の。咳。も。あ。憎。く。夫  
 へ。妻の。名。と。呼。び。西。の。秋。あ。て。妻。ふ。象。る。床。ゆ。つ。ま。ふ。あ。の。声。を。夢。て。あ。つ。と。  
 羨。し。も。あ。ひ。あ。や。つ。つ。あ。と。同。バ。本妻。あ。つ。つ。あ。つ。れ。も。あ。つ。る。あ。れ。て。も。人  
 ふ。あ。つ。ら。し。今。こ。そ。外。よ。声。を。の。と。ゆ。ゆ。と。口。吟。し。う。れ。れ。バ。夫。ハ。忽。地。感。は。堪  
 かく。ち。で。残。あ。の。妻。よ。つ。ま。る。り。ハ。い。ん。ら。が。天。魔。の。所。為。あ。く。あ。り。ら。ん。と。て。  
 忽。地。備。室。を。追。ひ。出。し。り。と。本。よ。ま。ま。ぬ。浮。氣。を。止。く。昔。よ。か。の。と。ど。睦  
 く。夫婦。共。白。髪。よ。ふ。あ。り。愛。想。兵。衛。ハ。ら。の。景。迹。よ。あ。は。び。も。大  
 息。吻。丸。團。よ。女。の。妬。忌。る。れ。ハ。百。の。拙。を。代。掩。ふ。と。り。り。人。の。性。の。言。る。る。も。慾  
 小。ま。て。悪。と。る。れ。と。物。は。觸。ま。く。感。激。を。れ。え。の。言。は。れ。ら。る。と。る。り。太  
 鼓。ゆ。撥。の。あ。つ。が。う。百。里。の。灘。と。ま。る。船。も。一。家。の。内。と。ま。ら。う。る。妻。も。只。楫  
 の。さ。や。う。を。ら。う。和。を。浮。も。水。和。を。覆。も。水。あ。ふ。新。さ。と。河。さ。ひ。の。柙。の  
 枝。よ。雪。お。り。け。あ。れ。バ。貞。女。ハ。家。の。宝。美。妻。ハ。身。を。殺。斃。し。ひ。と。夫婦。ハ  
 人。の。大。倫。あ。く。天子。諸。侯。も。あ。つ。の。妻。も。く。卷。耳。ハ。固。う。右。妃。の。徳。関  
 睡。へ。樂。ん。で。淫。む。と。り。り。只。後。る。兒。が。不。孝。る。と。バ。七。去。の。罪。む。子。も。沈  
 へ。去。る。子。も。と。り。り。ど。も。賢。あ。つ。て。又。母。よ。順。る。る。妻。ハ。去。ら。と。こ。は。換。る。妻  
 と。り。り。妻。を。娶。わ。も。妻。を。養。も。枕。の。塵。を。拂。し。て。房。は。快。樂。と。る。為  
 あ。あ。ら。び。子。種。と。あ。つ。と。田。地。あ。く。入。他。さ。ぬ。物。も。さ。バ。地。面。を。ひろ。く  
 り。ら。て。も。益。る。り。あ。つ。ら。び。の。習。俗。あ。く。標。致。か。う。て。賢。く。て。子。の。あ。れ

古今和歌集卷之六十一





かも。頓病頓死と云くハ居たまはせ。あつた日を擇むと。医とえん。時を忘るゝ毒を忌む。病ハの疾ぬれよ。も。糠生ハ多治る。ば。月も時あゆむ。斜致る。天う晴てあつた日。艾をえ。火を清く。開示のちぬやうよ。息あつた。その日ハ酒飲。西三日ハ浴。七日ハ同房。慎む。糠生よる。け。身あ。應ぬ。塩ぢら火の物断する。冬。真。潤。美。端婦。四花をえ。これバ。背。眼の。不足。ひ。め。羨む。交。治。せ。ぬ。あ。ち。ろ。ろ。ろ。夫。淫。樂。ハ。悪。る。る。る。糠。生。ハ。言。る。る。る。悪。ハ。進。む。ゆ。多。日。と。え。言。少。進。ぶ。ゆ。多。日。と。擇。む。其。の。意。甚。一。言。や。や。七。八。十。の。耶。婆。が。牽。牛。花。の。種。と。乾。て。お。れ。亦。来。年。も。蒔。て。の。ま。い。ふ。と。う。い。の。か。吟。咲。ひ。な。や。桶。へ。腰。け。く。年。は。不。足。ゆ。い。人。の。聖。の。

命由まはぬ身也。又来年の秋をまら。う。思。な。り。簡。中。と。び。あ。む。ハ。あ。つ。と。も。ら。い。が。ま。る。り。の。中。と。て。死。ま。い。の。ま。は。せ。ど。老。少。不。定。か。世。の。あ。つ。と。も。ら。い。と。生。ま。る。と。出。る。ハ。遅。り。速。り。死。ね。る。と。ど。其。の。臨。終。一。々。や。う。聖。や。う。五。十。年。六。十。年。後。の。ま。ら。あ。ま。ぬ。で。り。と。怒。哀。樂。聖。の。命。が。ま。は。ぬ。と。う。半。を。又。ね。り。居。て。一。日。由。り。ま。ら。せ。ど。あ。の。命。と。ま。り。つ。も。聖。の。り。来。年。の。と。孫。子。の。代。の。り。ま。ど。も。あ。ひ。や。り。人。の。為。り。か。ら。ん。る。の。あ。一。足。由。後。ま。ま。の。と。お。け。が。か。その。日。は。急。用。の。ま。は。こ。そ。朝。は。道。を。ま。ら。れ。ハ。又。一。死。と。も。よ。う。は。と。聖。人。の。宣。ふ。ま。は。高。か。七。年。の。河。後。三。度。つ。が。門。と。素。ぢ。や。の。ま。あ。ま。ま。も。功。は。濟。し。ま。め。で。る。く。千。万。年。の。後。也。由。民。や。と。う。れ。と。あ。ま。ま。の。德。今。は。衰。へ。む。禁。封。ハ。後。の。り。決。る。ん。ど。當。坐。志。の。死。の。と。そ。の。普。請。酒。池。肉。林。の。の。ま。切。え。せ。と。る。や。う。と。う。え。

のり 飲や唄へや一寸先ハ闇の夜の犬の糞より踏かす後かると跡の人ありも  
 踏まうとやうなる簡ゆゑその悪令は滅びば況て女の性ハ僻あり。三  
 畏よりか家ろく百年の苦樂を他人とすは夫一人を雪月花と稱てつて  
 めのるればは操を守一よあむりもつるかすせど一生夫は倦ますの他も指  
 とさすまやいとあつるよはづひして身とり崩さど假初あゆさう出口利ど  
 足とぬ夫は飢饉てと多くめめすて飯よく憐がを婦徳とのふ年がたれが  
 愚癡妻。姑よるぬ婦もるけは男姑とす理りめのとせはてさうら  
 さうく事さばさうくして飲ぶも又年ろりのうはあり。つれとれあは血気  
 剛。老てやれり夫のるけは良人のむむひめのと知るさうらさうらぬ  
 ばさすど機嫌のさう易いものへは富貴の家の妻よりめの手鍋さけぬ  
 うりよ。人を使ひのつるよはて気骨のおまるとありとも。これハ過世の

福ありて富貴の家の妻とあり。彼も過世の幸ありて他の婢妻とあり。もの  
 るれば胸の焔とさう滅して同病を相憐も同憂を相あふ彼も又身を恥く  
 本妻と敬ふべ。祇王が後佛ありとも。いづまう秋はあんで果へささうら  
 妻ハ床柱あり。妻も懸物の正。床柱ハ手榻まる母どえとさうあり。これハ  
 うるふハ甚ふあり。懸物の妻中の観るれば飽とるは。截くせんといはし  
 り一間の床の間でる。是とて野の懸物を掛んとあよ。その床柱を扱とれ  
 へ國家の轄とさう寛と。晋ハ驪姫は倒さ。吳ハ西施は滅び。されば  
 ちうさもいさどて國を傾け。猛さ武士の切死のり。目よえぬ鬼神あり  
 も。あさしげるめめと美女あり。裴奕といふころが。美人は二ツの畏さあり。年  
 ころれとれこれを見まば。生菩薩の正。孰り生る菩薩を畏まざん子ども野  
 りてるとえまば。九子母神よこもあり。孰り九子母神と畏まざん。五十六



山崎公朝



山崎公朝

解酒の巻



山崎公朝

解酒の巻

物いそぎ

寔は人間の飲令。こゝは極り。慾界の仙宮へ。外はありじ。と忽ち我とわ  
 ろうめじく。え。今中。小言。よ。夏。兵衛。も。さ。凡。夫。の。浅。草。の。延  
 延と流し。眼とを。鼻息。あ。く。つ。つ。え。さ。く。よ。き。を。と。れ。佐。と。本。か  
 欺。く。梶。原。の。馬。の。鞍。よ。あ。ね。ど。も。か。の。鼻。毛。と。り。ろ。と。も。紙。鳶。の。糸。目。の。延  
 と紙。鳶。に。彼。若。武。者。の。血。気。ま。ず。り。て。奮。怒。突。死。時。を。し。サ。ア。い。組。ん。と  
 大。手。と。ひ。ろ。げ。二。八。を。り。の。天。婦。人。が。襟。上。お。ん。で。身。を。脱。ん  
 と前。へ。い。く。至。よ。曳。舟。と。川。ち。り。り。小。浅。黄。纒。纒。の。襟。ひ。れ。離。て。左。右。へ。去  
 ろ。り。真。仰。向。り。や。い。ま。う。ね。と。夏。兵。衛。の。紙。鳶。へ。ひ。り。ろ。ま。づ。と。ま。く。え。い  
 小。張。の。糸。ま。ま。と。く。忽。然。と。片。荷。釣。り。啞。の。雷。を。や。う。と。案。内。あり。ま。う。と  
 と下。界。へ。落。と。腰。の。骨。と。ま。ま。と。打。ち。あ。り。と。失。ひ。て。お。の。名。の。夏。幻。の  
 境。と。ま。ま。と。され。と。定。業。場。ま。ま。と。三。月。以。の。杜。鵲。か。若。葉。よ。蒸。き。こ。ま。ち

お。て。ひ。ろ。げ。よ。息。吹。く。い。あ。う。と。見。ま。ば。あ。ひ。の。外。の。中。へ。落。れ。せ。く。  
 草。茫。々。と。小。松。原。よ。身。を。お。れ。て。ま。ま。居。り。橋。と。海。船。の。帆  
 柱。と。彷彿。し。る。深。ま。ま。の。悲。し。く。鳥。屋。よ。着。る。鞍。馬。天。狗。羽。衣。取  
 ち。て。天。人。か。あ。り。今。の。身。の。紙。鳶。の。糸。目。と。ま。ま。と。落。こ。り。ま。す。杖  
 小。さ。な。ま。ま。と。不。感。都。勢。と。追。ひ。失。ふ。と。林。和。靖。ゆ。れ。不。と。を。あ。あ。ま。い。と  
 後悔。と。の。詮。は。な。う。む。く。久。菜。の。仙。人。が。布。を。晒。と。女。の。腰。の。白。糸。よ  
 又。惚。ち。て。忽。ち。通。を。失。ひ。大。俗。凡。夫。よ。あ。り。向。物。と。ま。ま。と。可。來。吟  
 笑。と。面。目。る。や。人。あ。本。の。そ。う。竹。の。お。ま。の。ま。ま。と。朝。覽。上。人。の  
 身。の。ま。ま。と。幸。の。あ。り。京。極。の。御。息。所。よ。寛。く。玉。の。緒。と。珠。教。を。御  
 三。浦。の。山。よ。迹。垂。ゆ。ひ。大。物。主。の。大。神。も。哀。の。草。濃。り。久。き。ま。ま。と。倭。迹  
 迹。日。百。龍。衣。姫。命。の。匙。と。投。ま。ひ。例。も。あり。口。を。と。調。宝。る。物。の。く。人

の短衣たかぎ説たかぎしそ、釋迦しやくぢあの孔子こうしも勝かちて、又また立河たかのけし、これど  
 の身みもろく、炬燵かど、杖づゑ、ちりづく、中ちゆうに、必かならず、外そとといふ、ん  
 少年せうねん、國くにり、ろく、渡わたら、せ、小言せうごんいひ、結むすぶ、し、る、報はつひ、あ、く、喜よろこぶ、同どうを、か、り、も、る、る  
 王わう、飲いんと、昆こん、放はう、後ご、又また、舍しや、る、尻しつぽんの、く、か、身みの、臭にお、さ、次つぎ、た、ど、め、く、悟さとり、野の、中ちゆう、で  
 化くわ、さ、ま、と、接けつ、能ねい、ま、や、か、狐きつねの、た、る、ま、し、ま、く、只ただ、さ、う、ろ、く、と、し、と、ま、は、日ひ、ハ  
 暮くれ、か、る、肚はら、饑う、へ、る、宿しゆくを、備たも、つ、め、み、あ、の、人ひと、氣き、は、る、物もの、食く、み、あ、も、糧かづ、ハ、り、だ  
 紙し、式しき、書しよ、の、ろ、く、又また、ま、く、居ゐ、る、と、た、ハ、肚はら、饑う、へ、る、ね、む、く、も、お、お、え、ど、い、つ、も  
 正月しょうげつ、小せう、中ちゆう、と、お、ひ、ま、ち、三保さんぼ、の、門かど、松しょう、天てん、人にん、の、五ご、衰さい、と、か、か、身み、又また、ま、る、ま、の、と、ま  
 四よ、睡すい、も、む、い、山さん、水すい、あ、ら、う、東とう、ま、ろ、く、比ひ、里り、と、尋たづ、ね、は、松しょう、原げん、と、出で、る、あ、ら、ん、バ  
 入い、江え、あ、り、日ひ、本ほん、で、い、り、あ、る、あ、ら、ん、天てん、の、橋はし、ま、と、も、名な、づ、く、た、氣き、を、ふ、く、緑りよく、波は、岸がし  
 と、洗せん、へ、て、鶴つる、と、驚おどろ、き、白しろ、雲うん、水すい、映えい、じ、松しょう、倒たお、れ、ま、向むか、上うへ、ま、明めい、月げつ、海かい  
 う、昇のぼ、り、直ちやく、下げ、ま、漁りよく、舟ふね、巖いわ、又また、歌うた、り、潮うしほ、風かぜ、は、戦たたか、く、芦あし、の、穂ほ、は、は、れ、を、折お、く  
 う、と、疑うたが、ま、夕ゆふ、霧きり、ま、り、く、遠とほ、山さん、ハ、造ぞう、化くわ、の、墨すみ、繪えい、と、見み、ま、か、ま、し、り、つ、る、佳よ、晴はら、ん  
 小せう、世せい、と、避さ、ま、る、只ただ、一いつ、軒けん、の、柴しば、の、戸と、あ、り、り、須す、磨ま、の、配はい、肝かん、り、ま、海かい、神しん、の  
 別べつ、荘しやう、る、ま、ん、と、憂うれ、む、兵へい、衛ゑい、ハ、公こう、飲いん、び、お、の、づ、く、ま、又また、ま、ら、め、バ、立た、地ち、り  
 走を、り、う、れ、生せい、垣げん、の、片かた、折しや、戸と、と、推お、し、と、敲たた、き、ど、閑かん、か、を、い、つ、ま、の、庵いん、ま、の、の、チ、ま、え  
 此こゝ、ハ、流なが、れ、ま、ま、り、天てん、竺てく、浪らう、人にん、紙し、式しき、も、ふ、ま、ら、れ、て、難なん、儀ぎ、至し、極ごく、一いつ、夜や、の、宿しゆく、り、を  
 貸か、て、ま、と、古こ、風ふう、る、せ、り、ま、で、呼よ、門もん、も、軒けん、の、熱ねつ、柿し、の、点てん、改かい、む、ら、う、ん、ど、ま、も  
 漬つけ、ま、し、と、も、一いつ、言ごん、の、返へん、答た、る、け、ま、ば、ら、る、あ、い、く、ま、ま、ら、う、り、明めい、店てん、を、  
 る、ろ、く、と、垣げん、の、破やぶ、ま、ら、う、り、取と、り、け、が、熱あつ、田でん、へ、る、か、ん、ま、揚やう、貴き、妃ひ、ハ、巖いわ、嶋しま  
 の、弁べん、財さい、天てん、牧ぼく、と、ま、ら、う、又また、女によ、又また、琴こと、を、弾ひ、く、お、り、後ご、お、り、ま、ら、う、人ひと、の、幼ちゆう、由ゆ  
 志し、ぶ、た、れ、あ、て、樂がく、ま、ら、う、る、物もの、が、舟ふね、の、妬ねた、ま、亭てい、主しゆ、ハ、定さだ、め、く、玄げん、宗そう、帝てい、欽きん

の短衣たかぎ説たかぎしそ、釋迦しやくぢあの孔子こうしも勝かちて、又また立河たかのけし、これど  
 の身みもろく、炬燵かど、杖づゑ、ちりづく、中ちゆうに、必かならず、外そとといふ、ん  
 少年せうねん、國くにり、ろく、渡わたら、せ、小言せうごんいひ、結むすぶ、し、る、報はつひ、あ、く、喜よろこぶ、同どうを、か、り、も、る、る  
 王わう、飲いんと、昆こん、放はう、後ご、又また、舍しや、る、尻しつぽんの、く、か、身みの、臭にお、さ、次つぎ、た、ど、め、く、悟さとり、野の、中ちゆう、で  
 化くわ、さ、ま、と、接けつ、能ねい、ま、や、か、狐きつねの、た、る、ま、し、ま、く、只ただ、さ、う、ろ、く、と、し、と、ま、は、日ひ、ハ  
 暮くれ、か、る、肚はら、饑う、へ、る、宿しゆくを、備たも、つ、め、み、あ、の、人ひと、氣き、は、る、物もの、食く、み、あ、も、糧かづ、ハ、り、だ  
 紙し、式しき、書しよ、の、ろ、く、又また、ま、く、居ゐ、る、と、た、ハ、肚はら、饑う、へ、る、ね、む、く、も、お、お、え、ど、い、つ、も  
 正月しょうげつ、小せう、中ちゆう、と、お、ひ、ま、ち、三保さんぼ、の、門かど、松しょう、天てん、人にん、の、五ご、衰さい、と、か、か、身み、又また、ま、る、ま、の、と、ま  
 四よ、睡すい、も、む、い、山さん、水すい、あ、ら、う、東とう、ま、ろ、く、比ひ、里り、と、尋たづ、ね、は、松しょう、原げん、と、出で、る、あ、ら、ん、バ  
 入い、江え、あ、り、日ひ、本ほん、で、い、り、あ、る、あ、ら、ん、天てん、の、橋はし、ま、と、も、名な、づ、く、た、氣き、を、ふ、く、緑りよく、波は、岸がし  
 と、洗せん、へ、て、鶴つる、と、驚おどろ、き、白しろ、雲うん、水すい、映えい、じ、松しょう、倒たお、れ、ま、向むか、上うへ、ま、明めい、月げつ、海かい  
 う、昇のぼ、り、直ちやく、下げ、ま、漁りよく、舟ふね、巖いわ、又また、歌うた、り、潮うしほ、風かぜ、は、戦たたか、く、芦あし、の、穂ほ、は、は、れ、を、折お、く  
 う、と、疑うたが、ま、夕ゆふ、霧きり、ま、り、く、遠とほ、山さん、ハ、造ぞう、化くわ、の、墨すみ、繪えい、と、見み、ま、か、ま、し、り、つ、る、佳よ、晴はら、ん  
 小せう、世せい、と、避さ、ま、る、只ただ、一いつ、軒けん、の、柴しば、の、戸と、あ、り、り、須す、磨ま、の、配はい、肝かん、り、ま、海かい、神しん、の  
 別べつ、荘しやう、る、ま、ん、と、憂うれ、む、兵へい、衛ゑい、ハ、公こう、飲いん、び、お、の、づ、く、ま、又また、ま、ら、め、バ、立た、地ち、り  
 走を、り、う、れ、生せい、垣げん、の、片かた、折しや、戸と、と、推お、し、と、敲たた、き、ど、閑かん、か、を、い、つ、ま、の、庵いん、ま、の、の、チ、ま、え  
 此こゝ、ハ、流なが、れ、ま、ま、り、天てん、竺てく、浪らう、人にん、紙し、式しき、も、ふ、ま、ら、れ、て、難なん、儀ぎ、至し、極ごく、一いつ、夜や、の、宿しゆく、り、を  
 貸か、て、ま、と、古こ、風ふう、る、せ、り、ま、で、呼よ、門もん、も、軒けん、の、熱ねつ、柿し、の、点てん、改かい、む、ら、う、ん、ど、ま、も  
 漬つけ、ま、し、と、も、一いつ、言ごん、の、返へん、答た、る、け、ま、ば、ら、る、あ、い、く、ま、ま、ら、う、り、明めい、店てん、を、  
 る、ろ、く、と、垣げん、の、破やぶ、ま、ら、う、り、取と、り、け、が、熱あつ、田でん、へ、る、か、ん、ま、揚やう、貴き、妃ひ、ハ、巖いわ、嶋しま  
 の、弁べん、財さい、天てん、牧ぼく、と、ま、ら、う、又また、女によ、又また、琴こと、を、弾ひ、く、お、り、後ご、お、り、ま、ら、う、人ひと、の、幼ちゆう、由ゆ  
 志し、ぶ、た、れ、あ、て、樂がく、ま、ら、う、る、物もの、が、舟ふね、の、妬ねた、ま、亭てい、主しゆ、ハ、定さだ、め、く、玄げん、宗そう、帝てい、欽きん

但一平情盛飲り男がどうとよて年ころあが在吾中将光源氏  
あもとくからぬ上あろめのであて六稱むらひぬる面が見え  
とこんと忘まぐむ言。積敷の刺で額や項と搔中あうくも忍む  
ぞうやうやう。垣の破きめ首まゝとを。はぐぐとんまば六のり亭  
主は志まびし白髪阿蘇。まはるじやと二度びらうりうる色欲心  
おちとく切おろしの紅裏へ刺衣の表つけとあうらう。さそゆつり合  
ぬ夫婦うらと小腹のまぢ。吐けが箱ハ表を倍とんくあふ不審や今  
吾妹子が弾琴の調子忽地濁りくムウ。とん又下必繁あうれ  
亦春の中で竊し窺ふ癖者あふ。誰そんく系と仰又従ひ前  
禿の女の童が對のあう袖二人づま駝下駄うらう切戸と開く。爰想  
兵衛が袖を引る。モんせりのてんえせぬ油魚とよめぬあふ電う

生とるハ生垣あもろくりのさる。それるどんうハ内へ入て孔雀  
とんあう茶とあられ。サアとんせと引まゝ爰想兵衛ハ痛し入る。  
首をぬふとよれバあふ悲しや。積敷の刺であう。あうとたすとすはじ  
入れば帯の結び目あう。引まゝ痛さ苦し。だふとあうこの垣  
とりふぢく行後法ハあう飲まづ待まると賭結てもさう。情とあうぬ  
女の児ども弱腰丁と引まゝを並バ備のぬるく一旦まう。おらも霽る雨  
あう。こけりおびつ。おびつ腰つ。膝のあう。蹴場の泥の反つ傷きつ起  
あう。只ゆあてやうくと脱る項ハ蚯蚓腫救免し備る後寛が。  
壁所弘まろ。女の童の迹は眼を。縁炊ふ時。主の羽。覚余と  
うら笑え。つよ爰想兵衛。それを維らあう。んやん忘れ。飲と云  
る声ハ。やと改と撥。つぐとんは本牧の船の中で假寐



志と死。枕上よまよする。浦嶋太郎よ寸分らぐたを。あつては女  
 へ同じとまよし蓬萊仙女。さきつくと。と膝をうつら。打てわり  
 小対面。面目もある。仕合と。おそれく。敬まよ。浦嶋はらうと。  
 後忠兵衛と招れら。玻璃の四よ堆高く。器うつら。餅や。菓子  
 中ら。名もまよぬ。肯い物と。食くと。宣ふ。あつら。はら。御意はう。  
 一ツ食ふ。と。や。腹よ満て。忽地。これ。の。疑ひ。は。母。まよ。  
 持病の理屈。が。ひ。く。て。且。く。口。を。め。ぐ。く。せ。か。堪。ぬ。て。あ。ま。対ひ  
 疑ひ。なる。ふ。ハ。似。れ。ども。某。豫。て。日本。紀。あ。の。雄。略。紀。よ。え。ん。浦  
 嶋。が。の。紙。考。く。ま。日本。後。紀。卷。の。十七。淳。和。紀。を。て。少。い。よ。君。ハ。雄。略  
 天皇。の。二十。二年。秋。七月。蓬萊。宮。よ。赴。き。三百。四。十七。年。の。長。延。通。淳。和。天  
 皇。の。天。長。二年。冬。十二月。丹。後。の。水。江。よ。ま。よ。玉。手。宮。を。開。け。行。ふ。忽。地

皓白。衰。老。の。人。と。変。じ。去。ら。び。て。死。ゆ。い。と。く。く。も。え。さ。り。よ。記  
 され。の。外。の。古。書。万。葉。集。扶。桑。略。記。童。蒙。抄。る。ど。似。て。も。え。同。い  
 赴。る。よ。や。く。恙。る。く。さ。り。ま。よ。り。幽。霊。る。ど。あ。り。や。とい。ハ。せ。も  
 あ。い。ど。珍。笑。ひ。それ。の。ど。の。一。と。ま。う。て。その。二。と。ま。よ。ぬ。不。穿。鑿。釋。日本  
 紀。よ。丹。後。風。土。記。と。引。く。伊。与。部。鳥。養。與。謝。群。司。文。を。併。て。興。子。の  
 代。記。せ。り。と。え。え。え。と。丹。後。風。土。記。ハ。勿。論。その。浦。嶋。子。傳。とい。ふ  
 の。今。ハ。亡。び。て。傳。ね。ね。世。の。人。只。日本。紀。日本。後。紀。よ。據。て。疑。念。を  
 記。す。の。の。あ。い。か。彼。浦。嶋。子。傳。ま。よ。り。て。國。史。も。收。め。ま。よ。る。り。又  
 續。浦。嶋。子。傳。と。の。古。書。も。三百。餘。年。の。後。水。江。よ。の。り。と。記。す。  
 浦。嶋。が。子。悦。惣。と。て。日。を。弥。う。後。又。煎。と。煉。神。と。顯。ひ。出。巖。阿。よ  
 棲。息。して。終。る。不。次。と。ま。よ。と。あ。い。ハ。仙人。ま。よ。つ。と。慥。る。證。据。と。く

書を博く覧ねば一生疑ひの解ぬりのあり。おぬがせうる幼學同ハ  
 経史を博くばて雜書を博くあけ。類書も技巧して。動も放る  
 け。怪りありあり。まじり學び。お大に怪り。些なかり。知るるあえい。  
 ちらう。惑ふよあ。その俗眼にて。嗚呼。年不足  
 もる。いよ。まぶつ。さう。美女を左。琴瑟を右。よ。ハ。誘い  
 年老の冷水身。あ。今。この。ハ。跣で遊  
 る。と。ろ。ま。さ。げ。ま。ん。で。居。る。あ。ら。ふ。か。年。より。と。大。病。人。ハ。女。子。の。収。抱。で  
 な。げ。ま。の。れ。と。り。む。じ。や。千。万。人。の。美。女。が。眼。前。に。元。満。て。も。う。ろ。と。ま  
 動。さ。ね。ば。流。水。も。あ。ら。ふ。か。告。子。ハ。よ。の。を。動。さ。す。孟。子。も。亦。四。十。は  
 て。を。動。さ。す。と。い。り。受。女。を。と。る。財。宝。を。と。る。幼。少。動。さ。す。の。と。る。ハ。ま  
 じ。か。慾。を。拉。ぎ。恥。を。あ。ら。ふ。と。然。ユ。夫。と。い。ふ。あ。ら。う。ら。ば。不。義。の。富。を。と。る。

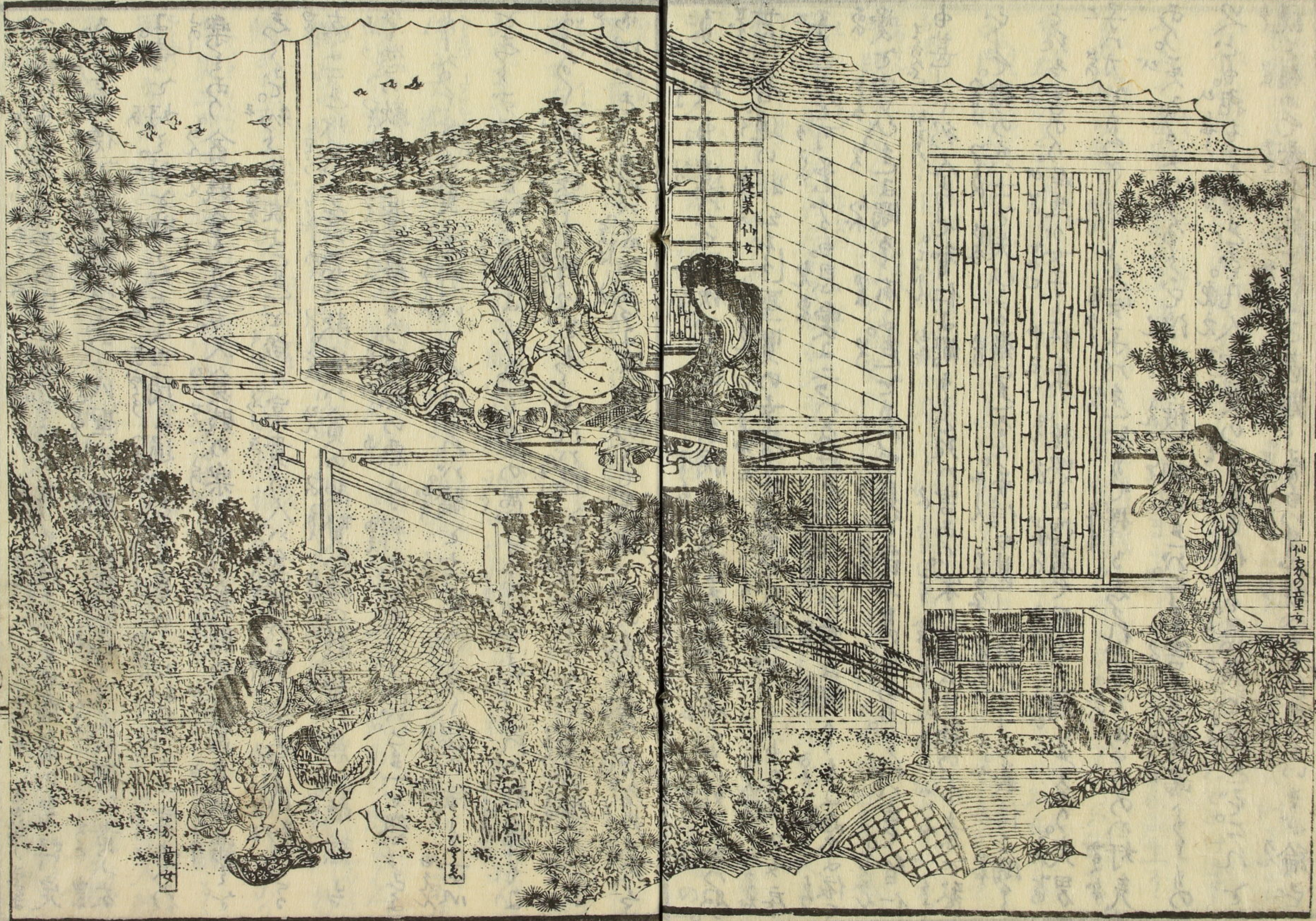
も。これと美。その寵。媚。使。此の妻子をえ。その美を飲ん  
 袖。親。族。と。恥。て。化。人。を。愛。し。貧。賤。を。侮。て。威。勢。は。著。亦。を。う。り  
 破。り。親。族。と。恥。て。化。人。を。愛。し。貧。賤。を。侮。て。威。勢。は。著。亦。を。う。り  
 くのや。他の妻。私。の。ゆ。り。為。損。つ。牙。の。破。滅。を。と。い。ふ。と。を  
 ま。ら。ぶ。る。あ。ら。ふ。か。狐。が。油。氣。を。と。る。涼。ある。と。火。燐。り。魚。が。蛇。蝎。を  
 え。と。り。狗。ある。と。狐。ある。あ。ら。う。と。慾。を。拉。ぎ。と。る。あ。ら。う。と。と。り。ハ。涼  
 ち。の。り。ハ。せ。ま。ん。狗。も。吞。ま。ん。と。か。慾。は。倒。して。危。を。忘。る。あ。は。明。日  
 ハ。獸。店。の。釜。釜。よ。つ。と。魚。屋。の。組。板。の。ぼ。ろ。ど。ろ。一。時。の。利。は。ま。り。千。載  
 の。名。を。傳。へ。六。の。慾。を。慾。あ。ら。う。と。百。年。の。命。を。損。な。す。と。い。ふ。あ。は。君。子。の。禍  
 と。ら。る。あ。ら。ふ。か。小。人。と。道。を。福。と。し。君。子。の。憎。む。あ。ら。ふ。か。小。人。と。道。を。好。む。者  
 ハ。塗。の。れ。ち。ら。ふ。女。子。を。と。る。も。を。や。か。動。く。か。ぬ。り。の。り。と。り。顔。を。と。る。と。大

の糞のあると忘るゝものあり。彼ハ何地の女子ぞや。それこそと云ふ。これハ  
 彼よりこれと云ふ。さうさう。彼も西へ往き。それハ東へ還る。只その瞬  
 の間。あつちを好きて。己の襟を染まらば。こまか為。又穿あう。の雪踏で  
 犬の糞。塗ら。園へ踏んで。五文の損を致し。甚し。た。至て。ハ小石へ踏て  
 足の爪と踏ち。父母の遺跡と毀ひ。傷りて。不孝不義の罪を。汚  
 せ。此を。禍と云ふ。速る。さう。御。あぬ。が。名。も。あ。ぬ。女子。と。もの。花。軍。を  
 へ。と。彼。を。流し。紙。鶴。の。う。へ。尻。が。居。く。と。忽。地。落。て。腰。の。骨。を。痛。め。紙  
 鶴。と。失。ひ。く。進。退。ら。極。し。も。彼。塗。り。く。女子。の。顔。を。見。ん。と。く。犬。の。糞  
 を。踏。つ。け。足。の。爪。と。刺。し。と。め。あ。等。しく。損。し。と。う。で。恥。を。被。り。と。身。が。行。や  
 る。と。行。て。ま。れ。これ。仙。術。と。り。て。頃。日。う。ら。あ。ぬ。が。理。屋。の。み。と。ま。く。ま。り。理  
 へ。る。け。し。と。り。あ。ど。牙。が。折。ま。ね。バ。岡。眼。八。目。他。の。死。ハ。臭。く。ア。が。尻。ハ。臭。く

「詰りささるゝ。益のたろり。恐る。バ。七。つ。よ。ある。憎。ま。ろ。の。う。ん。く。息。子。が  
 友。と。と。喧。嘩。し。と。悪。口。尺。と。親。に。か。や。う。ね。て。死。ん。で。出。る。せ。ん。と。中。う。拵。げ。ぬ  
 向。後。う。と。悪。口。つ。る。悪。口。つ。と。ま。ま。あ。ま。り。ぞ。の。う。ろ。う。つ。し。野。郎。え。と  
 叱。り。や。う。る。もの。あ。く。悪。口。つ。る。と。訓。を。親。が。悪。ま。つ。て。叱。て。ハ。叱。り。訓。の。う。入  
 我。系。入。る。え。と。ま。ま。ら。ば。あ。ぬ。が。女。年。圓。で。い。い。と。小。ま。も。ら。ん。り。の。あ。せ。物。あ。ら  
 ぞ。く。あ。ひ。や。り。と。い。い。と。肝。要。四。角。よ。し。バ。慟。隱。の。う。ろ。是。と。世。子。を。り。ぬ。人  
 か。代。の。子。ど。も。の。不。行。義。を。え。て。ハ。あ。が。く。し。か。り。状。の。猛。か。あ。ま。り。と。さ。て。も。直。る。人。あ  
 る。す。い。と。大。に。ふ。お。せ。ら。ん。小。言。の。あ。り。それ。の。子。を。り。ぬ。人。の。う。簡。め。て。子。を。ん。  
 と。親。よ。ま。つ。と。四。五。十。よ。う。と。髯。を。し。じ。五。人。七。人。子。を。り。て。一。家。の。掃。く。り  
 する。や。じ。の。め。の。か。む。じ。う。の。工。奴。ま。つ。と。ん。や。知。り。つ。る。の。妙。ひ。が。死。の。夜。食。の。足。り  
 ぬ。と。世。に。う。り。暇。の。ろ。い。な。ぞ。し。人。生。ま。と。く。三。年。は。て。物。の。い。ま。の。ひ。七。年。み。と。う。

悉く承る所以、物の中より賣ておるなり。日本に生る人ハ割れども  
 半介半波で言を言け。異邦に生る人ハ割れども馬矢平で坊をわけ。さ  
 ぶらうて富貴の家は生るものも。物のひびきも賤し。貧賤の家は生る  
 めのハ物いひびきもいと賤し。氏より育習が性とする。あるはこまに割れども  
 ちりぬりのこと。孟母とさびく店がえといふれり。さうして子と申ハ外出も  
 ぶ内ではたゞ五紙第一とまうけさば。さうして近所へ出うけても友がよいゆえ  
 おり。さうして自然と内は尻の居ると卵養の鳥の如と出ぬもあつた。め  
 手段とありあつた。押入と曲突のぬれおとさうてえまば。僅三と四の席  
 薦や。敷きぬ住居とる奴も。又そこへおれり。孝行ある子とあつて。人  
 又これ美を親を。さうして子のの生るより大人への成り。又孝行ありて。病ひでも  
 出せま。飲糧命でいふまう。さうしてさういふこと。昔ながらのけし。ハ勿論の

る小残も遺つて酒飲む。このさう調落するものなれば。とこの外を敵の如  
 世俗普通の親む。聖賢の女房。子どもと可愛がる。凡人の女房  
 子どもと可愛がる。思愛は二つある。凡人の愛は溺るなり。愛は依て  
 愛と建つ。色は溺るなり。色をもちて身を喪ふものあり。さればと。智仁  
 由甚しく。初んとて。智仁は溺るなり。死ハ害あり。木の裏に。敵の不意を  
 かく。驛の兵士と失ひる類とさる。義信由甚しく。初んとて。義信は溺る  
 と此ハ害あり。尾生が女子と約束し。橋梁は抱著て死する類とさる。夫男  
 子ハ力とあり。奉りて女子ハ色とあり。擇む。あつれども力あるものハ好気  
 あり。愛する女ハうらみと。淫あり。彼は利あり。さうして害あり。鸚鵡とくもの  
 こと。飛を。難と。凡人聖賢の口をぬれども。愚癡と離れ。これを  
 説と極めて易く。これを初ると甚難し。昔のいふ。説くべし。愚もいふ。論を



蓬莱仙女

仙家の童子

山か童子

山か童子



之慾の害とあづき。死のいのあそく不志れども色は濁は情死しと  
 恨とせざるものあり。富人の慾たる亦志れども色を好む富を捨て貪  
 と辞せざるものあり。人こそ見え思ふるとと。その身よあいつく賢  
 がどし。その友よ鹿を逐ふ獠師の山と見え。道その公廉ありて。山  
 あり。こればかり。色とあひのこまは同じ。男女相飲ぶが為よ。その害をま  
 ぶ。食と色と天性あり。教されども道を志す。その書をみるよ。その慾  
 あり。こそと。百年の夫婦のあそども。一生つとま。情人のほと。多  
 くの美人とみる。醜態とみる。艶曲をま。風の身よ。ま。ま。  
 くらひて。色慾國はあり。そのくも。その色の界は。其の世は。貪泉と飲め。の  
 貪る。公起す。そのくも。それども。呉隱之。これを飲で。ま。く。廉あり。志をま。め  
 八維。ゆ。く。あ。づ。り。れ。これ。バ。も。亦。一。度。の。途。よ。一。候。の。功。名。達。某  
 仙女が。色よ。世で。三百四十七年の春秋と。ま。ま。故郷は。ゆ。り。が。親兄  
 才の。い。ま。ま。ま。家。由。る。け。ま。巴。里。も。ま。ま。東。と。ま。西。と。ま。ま。  
 多。ま。ま。ぬ。人。む。り。せん。う。つ。死。て。玉。手。箱。と。開。て。一。度。よ。る。年。が。ま。ま。  
 る。つ。て。色。慾。の。害。あ。る。と。紙。を。め。て。情。の。形。と。煉。り。慾。を。断。仙。人。ふ。り。  
 せ。ま。ま。ハ。鉄。砧。で。も。紙。動。さ。ま。ま。お。ゆ。も。ま。ま。賢。け。は。理。屈。い。ま。ま。  
 其。の。身。を。つ。め。て。人。の。痛。ま。ま。ひ。や。ぬ。固。宰。領。世。は。大。人。の。息。子。や。娘。  
 が。世。間。の。善。言。り。の。ま。ま。ま。ま。三。四。十。よ。及。ぶ。思。は。ま。ま。男。ハ。抱。女。抱。ひ。て。  
 親。よ。ま。ま。ま。と。身。代。と。分。散。し。女。房。子。と。ま。ま。乞。食。と。世。女。ハ。父。母。の。ま。  
 つ。け。と。ま。ま。と。律。義。で。嫁。ぐ。夫。と。捨。て。逃。れ。世。の。胡。惠。と。ま。ま。の。味。ひ。と。  
 あり。これ。ま。ま。の。賢。く。て。後。は。思。は。ま。ま。ま。ま。の。味。ひ。と。  
 ま。ま。ぬ。ら。ら。の。人。と。も。笑。つ。ま。不。圖。と。ま。ま。味。と。お。不。え。これ。ま。ま。ま。

力の孤。今ちで食るんぢいひる。田別。人間僅五十年。こま式の樂も。  
 世にふいでるぢいれうら許し。一度食ひ二度あそび。二度四度と  
 度うさる。身の破滅よるると死よ。ちめてるの度うさるよ。狼狽  
 まつ。うらあふる。孤あそびのけう。後悔まら。途うらむ。河豚あ毒の  
 ありの。とばおぼし。食ぬりの。人の食ひをえまら。ゆせむ。これ程  
 高味のある魚を。えてわらう。と笑ま。ちてえさう。とさう。よ。一箸  
 食う。う。えゆり。まむ。それう。河豚が好まら。て。さう。やう。やう。河豚  
 命令をさう。と。彼う。ふ。の味をさう。ぢい。人か。四十を越。て。浮気まら。  
 身上を分散まら。と。ちう。よ。ま。人のまねの。して。見識の。る。ふ。う。ら。いつ  
 ちう。つ。も。由断。は。る。ふ。あ。れ。ば。お。ぬ。が。く。さ。る。も。さ。慾。國。の。味。ひ。と。これ。ま。で  
 ちう。ぬ。あ。す。と。ちう。あ。う。ら。女。子。嫌。ひ。と。い。ひ。の。さ。う。さ。う。く。は。し。の。道。理。を。惜。ね。ば。

上品領の景迹を見て。腰うらぬう。さう。ま。と。さ。る。る。中。品。下。品。と。さ。る。ら。う。  
 ば。さ。も。命。い。つ。く。ま。い。苦。中。の。苦。と。喫。ま。る。人。と。人。の。う。の。人。と。い。ふ。こ。ま。  
 と。惜。の。道。途。ま。ら。と。え。ま。う。つ。け。ま。ら。う。つ。け。身。を。警。め。人。と。警。め。情。を。  
 禁。め。慾。と。控。ぐ。と。奴。工。夫。ま。ら。捨。紙。鳥。あ。ま。助。る。風。あり。中。品。下  
 品。の。あ。知。う。ら。さ。る。陸。地。あ。れ。に。到。り。易。強。飲。貪。婪。の。二。國。へ。い。れ。又  
 船。を。め。り。て。送。り。や。る。る。人。凡。の。四。の。國。を。極。て。後。ち。め。て。五。十。年。の。非。を  
 ち。う。へ。ぬ。ま。ら。び。不。名。残。の。祐。あり。て。煩。悩。哀。傷。食。言。飲。樂。の。四。の。郷。へ  
 赴。ん。と。容。易。ま。ら。べ。い。ち。あ。ん。と。さ。ひ。い。ち。あ。よ。つ。れ。へ。う。ら。よ。化。現。して。お。ぬ。  
 と。ま。ら。う。と。さ。う。う。ら。さ。と。せ。れ。ま。ら。う。夢。想。兵。衛。の。一。も。由。出。む。よ。あ。の  
 の。ひ。と。ま。ら。う。よ。痿。痺。ま。ら。し。て。ま。あ。が。れ。ば。又。う。の。二。人。の。女。の。童。か。さ。の。あ。ん  
 せ。と。送。り。出。し。て。切。戸。を。ひ。つ。ま。り。川。う。ら。ま。ら。ば。憂。悲。兵。衛。ハ。忙。然。と。憂。う



あめふらふらして。本の間をま出。水かきひ。ゆく二三町あり。ふれをげよえ  
り。まへ。今まをのりつる草の庵いままをのりつる草の庵消かたどく迹る  
たつて。ゆくともまらるどあるともおぼえど。色慾園の中郎。中品  
領へ著よけり。

○總評

男女の非礼を野合といふ。女を娶ふふ心まら媒をのりて。男女の足節  
と淫奔とを。このもえよ。貞女の二庭を踏む。色を好で穢とまら。これ夫婦  
別る。色を好で乱る。力のハ妻妻よ汚る。礼節そのよとれた。妻子よく  
合ふ。待よのいどや。悉琴と鼓かたぐ。和樂して。且樂む。その樂しを樂む  
と。真の樂しといふ。ゆて。色を好むとも可あらん。

夢想兵衛胡蝶物語卷之二終



